

西淀川区の都市景観資源紹介



西淀川区の都市景観資源

大阪市では、西淀川区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成29年3月17日に17件を都市景観資源に登録しました。

1. おおのがわりよくいんどうろ 大野川緑陰道路



◆所在地

西淀川区歌島2丁目～福町2丁目

◆概要

公害対策と環境改善を目的として、昭和45～47年度（1970～1972年度）にかけて大野川筋の埋め立て工事が行われた。跡地利用として、緑豊かな散策道路、サイクリング道路とすることが決定された。

この大野川緑陰道路は、八丁大橋跡から淀の水橋跡間の約3.8kmで、幅員は19～47mある。

整備工事は昭和46～54年度（1971～1979年度）にかけて行われた。

この道路には、高木約1万本、低木約12万本の100種類にも及ぶ樹木があり、その中には、30数種類の薬用植物も見られる。樹木への施肥、枝の剪定、虫害防除、雑草の除去、清掃等々、多くの人々の手により健康づくりの場として親しまれ、区民の憩いの場となっている。

2. えざききねんかん 江崎記念館



◆所在地

西淀川区歌島4丁目6番5号

◆概要

企業ミュージアム「江崎記念館」は、江崎グリコ株式会社が昭和47年（1972年）3月、創立50周年記念事業の一環として、従業員に創業の志を伝え、社業の発展に寄与するため設立したものである。館内には創業以来の江崎グリコのあゆみに関する資料、製品・販促品をはじめ、創業者江崎利一（えざきりいち）ゆかりの品々を展示している。展示品の一部は、国の近代化産業遺産に認定されている。

3. おおの 大野せせらぎの里



◆所在地

西淀川区大野 2 丁目 4 番 117 号

◆概要

平成 9 年 (1997 年) 7 月、大野下水処理場内に完成し、約 9700 m²の面積をもつ「安定池」には水生植物をはじめ、池周辺にも常緑樹・落葉樹が植えられている。

また、全長 350m の遊歩道・あずまや・せせらぎなども配置され、潤いのある空間を創り出している。

※「安定池」とは、水中の微生物や水生生物などによる自然の浄化作用を利用し、処理場の処理水をさらに安定した水質にする施設。また、災害時には防火・生活雑用水の供給の水源としても利用される。

4. おおわたすみよしじんしゃ 大和田住吉神社



◆所在地

西淀川区大和田 5 丁目 20 番 20 号

◆概要

創建は任明天皇の承和 9 年 (842 年) の勸請と伝えられ、その後明治になり濱の宮八幡神社・出来島皇大神宮・稲荷社を、昭和 37 年 (1962 年) に金毘羅神社を合祀した。当地は昔より大和田の庄、大和田の浦とも称し、平安朝時代に大小の船舶の寄港した港であった。村民の多くは天賦として漁業を営み、海上の守護神である住吉三神、当浦に船を寄せたという由縁がある神功皇后を勸請する所以である。天正 8 年 (1580 年)、延宝 4 年 (1676 年) に改築したが第二次世界大戦で消失してしまい、現在の社は戦後新たに造営したものである。また、境内には判官松 (ほうがんまつ) の碑や新千船橋の親柱がある。



5. よどがわかせんじき にしよどがわく 淀川河川敷（西淀川区）



◆所在地

西淀川区柏里1丁目～西島2丁目

◆概要

西淀川区内の淀川河川敷は、淀川の河口にあることから川幅も広く川べりに群生するヨシ原などの自然環境がみられる地域となっている。

河川敷には、スポーツや遊びが楽しめる広場などがあり、また、対岸の街並みや大阪湾の方角には夕日などが見られる眺望の良い場所であり、多くの人たちに親しまれている。

この辺りは、古くから淀川が大小の川に分かれ、「難波八十島（なにわやしま）」と呼ばれる島を縫うように流れていた時代もあったが、明治18年（1885年）に発生した淀川の大洪水をきっかけに現在の北区長柄付近から此花区常吉までの約11kmにわたってほぼ直線的に開削され、明治42年（1909年）に新たな河道と河口が生まれた。

6. たみのじんじゃ 田蓑神社



◆所在地

西淀川区佃1丁目18番14号

◆概要

十四代仲哀天皇の妻である神功皇后が、この地に立ち寄られた際、白魚を献上した海土を奉ったとされている。

後の世、当地開拓の時その海土が出現し、神功皇后の船の鬼板を伝え守って数百年この神宝を安置して住吉大明神を奉るよう伝え、貞観11年（869年）に田蓑嶋神社が創建され、住吉三神と神功皇后の「住吉四神」を奉った。寛保元年（1741年）に住吉神社と改名、明治元年（1868年）に田蓑神社となる。

また、境内には当地域について詠んだ平安朝の歌人紀貫之（866～945年）の歌碑も存在する。



7. ごしゃじんじや 五社神社



◆所在地

西淀川区中島1丁目2番8号

◆概要

元禄元年(1688年)中島新田が開発された時に創建され京都の人に開発されたためか西淀川区内では珍しく住吉大神以外の神々が勧請されている。神社本殿及び拝殿は文化5年(1808年)に再建されこの頃に石造鳥居や石灯笼も奉納されている。文化文政時代、津田常則(つだつねのり)という神官が「この世に住める人の病む悪しき腫物はことごとく救い治むべし」との神勅を蒙り疫病削除の靈験があらたかであったので、誰いうこともなく「城島のくさ神様」と呼ばれ、近郷からの祈願に参拝する人の跡が絶えなかった。昭和の初期まで五月端午の節句に牛の藪入りと称し、各農家は耕牛に五色の旗を立て首に縄をしめ美しく飾り、社頭に牛をひいて参拝し、境内でちまきを食べさせ家畜に日頃の労をねぎらっていた。

8. やぐらりよくち 矢倉緑地から望む阪神高速 のぞ はんしんこうそく



◆所在地

西淀川区中島2丁目～此花区常吉1丁目

◆概要

関西国際空港から本州四国連絡道路明石海峡大橋までの約80kmをつなぐ、海上をメインに走る高速道路(阪神高速道路5号湾岸線)で、矢倉緑地から望める区間は湾岸線4期(西淀川区の中島～此花区の北港の3km)で昭和56年(1981年)に工事に着手し、平成3年(1991年)9月に開通した。神崎川、淀川河口の海上部に位置し、湾岸線のほぼ中央に位置する。中でも右手に望める中島パーキングエリアは大阪湾上にある我が国最初の海上パーキングエリアで、中島本線料金所とあわせると、海上20mの高さに幅員100mにも及び、航空母艦にも比喩される広大な構造物である。